

税金による株式会社「私」

横浜市立南が丘中学校3年 吉田 咲々音

私たち中学三年生は半年後、受験をして高校へ入学する。もう今までの義務教育とは異なり、自分の意志で高校へ通うのだ。それぞれが自分自身のやりたいこと、将来に向けて本気で進路を考える。しかし、どの高校へ行きたいか考えていたとき、やはり私の頭には公立高校と私立高校の最大の違いともいえる学費のことがちらついていた。

そんな中、私の耳に高校実質無償化のニュースが入ってきた。最初は本当に有難い、感謝の気持ちでいっぱいだった。これのおかげで進路がひらけた人も多いのではないかな。しかし、冷静になって考えると、この費用を誰が出しているのかが不思議に思えてきた。私と同年代の子供だけでも一〇〇万人以上いる。全員に適応されるとなると莫大な費用が必要となるはずである。

この費用は国の歳入によりまかなわれる。その歳入のうち約六八％は税金から得られるものである。税金、と言われて私が思いつくものは身近にある消費税だ。しかし私たち中学生はそもそも自分で稼いだお金で買い物をするのはほとんどない上、買い物の量も大人と比べると微量である。また、所得税や法人税を合わせると消費税の二倍ほどの額となる。そうなると高校無償化の費用はほぼ全て大人が負担してくださるということになる。

そこで私はこの負担していただいている費用を「私たちの将来に対する大人からの投資」と捉えてみた。投資してもらえた株式会社は何らかの形で株主に還元しなければならない。私たちは何で還元できるのか。還元するには何を必要があるのか。大人に投資していただいている以上、これらを考える責任があると思う。

教育を私たちに施すことで期待できること、それは日本社会の発展だろうか。それとも、少子高齢化社会、働き手不足といわれる現代または未来で日本社会を支えることだろうか。今の私にはまだ明確にはわからない。だが、今後高校へ進学する、そしていつか社会へ出るときまでに答えを出しておきたいと思う。

私はこの少しでも期待してもらえている状況がうれしくてたまらない。この無償化という投資は私にとって、私たちへの期待度を示す大切な指標なのである。やはり期待されるとやる気が起こるわけなのだ。

この期待と与えていただいた機会を無駄にせず、感謝と喜びを社会、税金を通じて表現したい。そのために今は全力でやるべきことを行い、努力を継続していこうと思う。

『この度は、私たちに対する貴重なご支援に心より感謝申し上げます。今後皆様の期待に応えるために、更なる成長を目指してまいります。今後とも、何卒よろしくお願い申し上げます。株式会社「私」』